

令和6年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
58	05	25	26	20	15	健康長寿のまちづくり推進事業費			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			675110		地域みまもり支援センター地域ケア推進課/地域支援課			高橋/高柳	64813/64837

事業の概要										
事業の概要		区内の施設を借り、日頃の活動の紹介展示や制作物の販売などを行うほか、体験型のブースも出展し、地域の福祉活動に理解を深めてもらう「たかつ区健康福祉まつり」を開催する。また、有酸素運動、筋力トレーニング、柔軟体操の要素が組み込まれている「高津公園体操」を地域に普及することで介護予防、見守り体制を推進する。加えて、働き盛り世代に対して、元気なうちから健康づくりや情報収集など老後の備えができるよう、啓発を行う。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		すこやか・支え合いまちづくり事業費		
		平成2年		—						
地域の課題と現状		少子・高齢社会を迎え、高齢者の健康維持や社会参加はますます大きな社会問題になっており、地域ぐるみで考えることが求められている。そのため、高齢者や障害者の方々や多くの区民が触れ合い交流を深め、健康と高齢者問題や地域福祉を共に考える場づくりが必要と考えられる。また、市民が主体的に健康づくりや介護予防に取り組む体制を作っていく必要があるほか、住民同士の関係が希薄化する中で、地域における見守り体制の構築を進めていく必要もある。								
予決算 (単位:千円)	財源内訳	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
			予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
		事業費	1,214	126	1,268	714	1,222	776		
		国庫支出金								
		市債								
		その他特財	20	9	24	13	9	11		
	一般財源	1,194	117	1,244	701	1,213	765			

計画 (Plan)									
事業の目的			「たかつ区健康福祉まつり」は、高齢者や障害者の方々や多くの区民が触れ合い交流を深め、健康と高齢者問題や地域福祉を共に考えることを目的とする。また、「公園体操」は介護予防に加え「閉じこもり予防」「見守り活動」も含めた各地域のコミュニティの活性化を目指す。加えて、働き盛り世代に対して、元気なうちから健康づくりや情報収集など老後の備えの意識づくりを目的とする。						
今年度の事業の取組内容			たかつ区健康福祉まつりの開催、働き盛り世代の健康づくりについてのチラシ配布等の啓発、保健師による公園体操グループ支援、体験会・すでに参加している区民へのフォローアップ研修の開催、グループ交流会の実施						

実施結果（Do）										
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等		・健康福祉まつりについては、高津市民館で開催し、参加団体の活動の紹介、健康相談、骨密度の測定、ユニバーサルスポーツや公園体操体験などの各種催し物を行い、1,100人が来場した。 ・公園体操マップを作成し、多世代に周知するために様々な場所で配布を行った。 ・公園体操立ち上げのための研修会を実施した。 ・公園体操普及啓発講座を実施した。（参加者：22名） ・公園体操リーダー研修会・交流会を実施した。（参加者：11名）								
数値で把握することが可能な取組		指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
		1	成果指標	健康福祉まつりの開催(参加者数)	目標	250	500	1,100		人
					実績	0	1,000	1,100		
		2	活動指標	健康づくり啓発チラシの配布	目標	－	500	1,250		部
					実績	－	1,000	1,250		
		3	成果指標	公園体操の活動数	目標	42	45	42		団体
					実績	43	44	40		
		4	活動指標	体験会・フォローアップ研修の実施、グループリーダー交流会の実施	目標	2	2	2		回
					実績	2	2	2		

評価 (Check)				
事業を取り巻く社会環境の変化		団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年以降に向けて、自助互助の促進が益々求められる。超高齢社会を地域で支えるために見守り体制の充実が課題であり、地域での多世代交流を推進し、互助の意識を高めていく必要がある。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) 6 年度 □ 今後実施(年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		・たかつ区健康福祉まつり実行委員会設置要綱を見直し、実行委員会の委員構成や会議の持ち方を変更し、運営の効率化と委員の負担軽減を図った。 ・リーダーの高齢化を理由に活動中止する既存の公園体操がある一方で、高齢者福祉施設の事業所が主体となった地域交流スペースを活用した公園体操が立ち上がった。		
		評価項目		評価
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている		a
	評価の理由	団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年以降に向けて、自助互助の促進が益々求められる。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない		a
	評価の理由	健康福祉まつりは、高齢者や子ども、障害者を含む多くの区民や団体が交流を深め、健康や福祉を共に考える場を設けることで、見守り支えあいの地域づくりを推進することができた。公園体操については、高齢者福祉施設の地域交流スペースを活用した公演体操が1か所新たに立ち上がった。多様な主体による公園体操が広がることで、新たなコミュニティの形成につながった。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。	a. 可能性はない b. 可能性はある		a
	評価の理由	健康福祉まつりについては運営形態を見直し、企画部会を廃止し、実行委員会と出展団体連絡会を開催する方式に変更をし、要綱の改正も行った。		

改善 (Action)									
今後の事業の方向性			方向性区分		方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性			
			I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了		II	少子・高齢化の進展により、地域社会における市民の助け合いの重要性が高まっている。コロナ禍終息し、市民活動等再開も見られ始めているが、コロナ禍の影響でつながりが減った区民や消滅した市民活動が多くなることを十分認識し、協働によって地域で暮らす区民が健康や福祉を共に考える場の提供・参加団体間の交流をこれまで以上に充実させることを目指す。			

令和6年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
58	05	25	26	20	10	高津区地域包括支援ネットワーク推進事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			675110		地域みまもり支援センター地域ケア推進課/高齢・障害課			中島/牛若	64814/64622

事業の概要

事業の概要		住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、在宅医療の普及啓発の促進や、マンションにおけるつながりづくり等を支援し、地域の支え合いを推進する。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		すこやか・支え合いまちづくり事業費	
		平成26年度		—					
地域の課題と現状		医療的なケアが必要な在宅の要介護高齢者が増加するため、在宅医療の普及啓発が必要である。 支援が必要な高齢者などが地域のコミュニティ意識の低下により孤立しがちなため、地域社会全体で見守る体制が必要である。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	1,412	1,190	1,422	1,015	1,073	891		
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特財							
一般財源	1,412	1,190	1,422	1,015	1,073	891			

計画 (Plan)

事業の目的	住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、在宅医療の普及啓発や見守り・支え合いの地域づくりを進める。
今年度の事業の取組内容	在宅医療シンポジウム、マンションつながりづくり交流会を開催する。

実施結果 (Do)

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	・医療、在宅療養について理解を深めるために「シニアになっても、元気に！楽しく！」をテーマにシンポジウムを実施した。 ・マンションでのつながりづくりに役立つ好事例のチラシを作成し配布した。またマンションに関する課題や取組を共有する「マンションにおけるつながりづくり講演会・交流会」を開催した。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	成果指標	在宅医療シンポジウムの開催(参加者)	目標	60	60	60		人
				実績	33	103	133		
	2	活動指標	マンションにおけるつながりづくり交流会の実施	目標	2	2	1	回	
				実績	2	1	1		
	3			目標					
				実績					
	4			目標					
				実績					

評価 (Check)

事業を取り巻く 社会環境の変化		2025年問題の対策として、地域包括ケアシステムの推進は重要な課題であり、地域力を高め、区民、地域の活動団体、行政等が、それぞれの役割の中で、お互いに力を合わせ、地域課題の解決に努める地域社会の醸成が求められている。				
事業の見直し・改善内容		■ 実施	(直近)	4 年度	□ 今後実施(年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる 場合は記載		マンションつながり事業における交流会について、年1回での開催から複数回の回数に変更し、これによりマンションに関する様々な課題をテーマに取り上げることができた。(R1:1回、R2:3回、R3:3回、R4:2回)				
評価項目						
必要性		事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか			a. 薄れていない b. 薄れている	a
評価の理由		団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年に向けて、自助互助の促進がますます求められる。				
有効性		活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか			a. 上がっている b. 上がっていない	a
評価の理由		在宅医療やマンションでのつながりづくりの普及啓発を通じて、自助互助を促進することができた。				
効率性		事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。			a. 可能性はない b. 可能性はある	b
評価の理由		委託先や関係機関等と協議を行い、役割分担の見直し等による改善を進めていく。				

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	在宅医療に関する理解がさらに深まるように事業内容を工夫しながら、引き続きシンポジウム等のイベント開催を行う。 区内の分譲マンションにおける住民間や地域との「つながりづくり」の取組を支援するとともに、交流会やリーフレット等を通じて好事例を区内へ発信することなどにより、住民同士やマンションと地域のつながりづくりを推進していく。